

5 「平成2年度生まれの者」と「昭和35年度生まれの者」の年間発育量の比較

平成20年度調査で17歳の「平成2年度生まれの者」と、30年前の昭和53年度調査で17歳の「昭和35年度生まれの者」（親の世代）の6歳から17歳までの各年齢間における身長、体重の年間発育量等について比較すると、図11～14と表9のとおりになります。

(1) 身長

身長の年間発育量について「平成2年度生まれの者」と「昭和35年度生まれの者」とを比較すると、最大の年間発育量を示す時期は、男子では、「平成2年度生まれの者」が12歳～13歳（年間発育量7.9cm）、「昭和35年度生まれの者」は11歳～12歳、12歳～13歳（同7.1cm）になっています。女子では、「平成2年度生まれの者」が10歳～11歳（同7.5cm）、「昭和35年度生まれの者」は10歳～11歳（同8.2cm）になっています。

図11 平成2年度生まれの者と昭和35年度生まれの者の年間発育量（身長・男子）

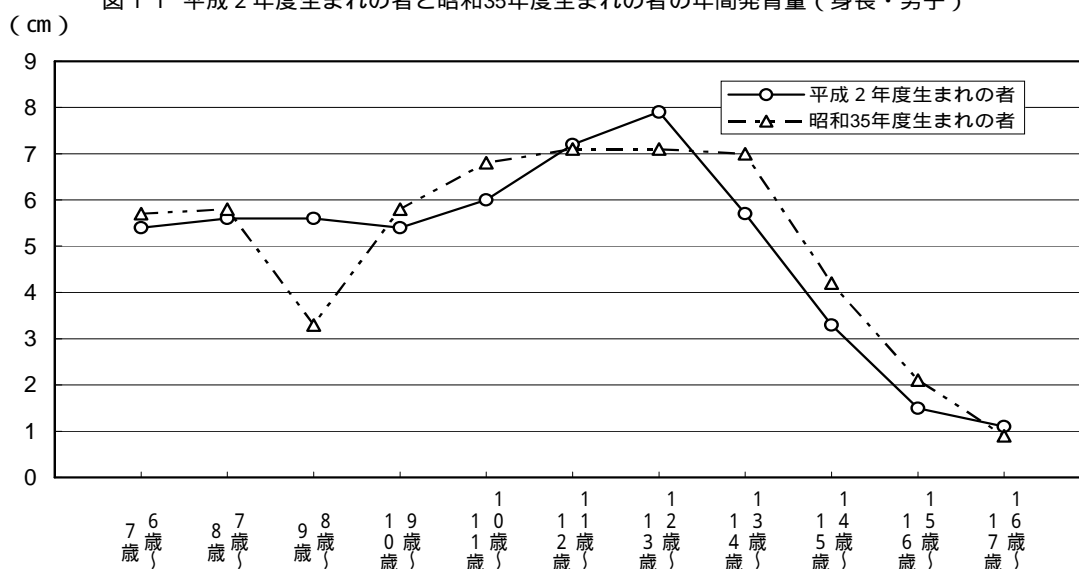
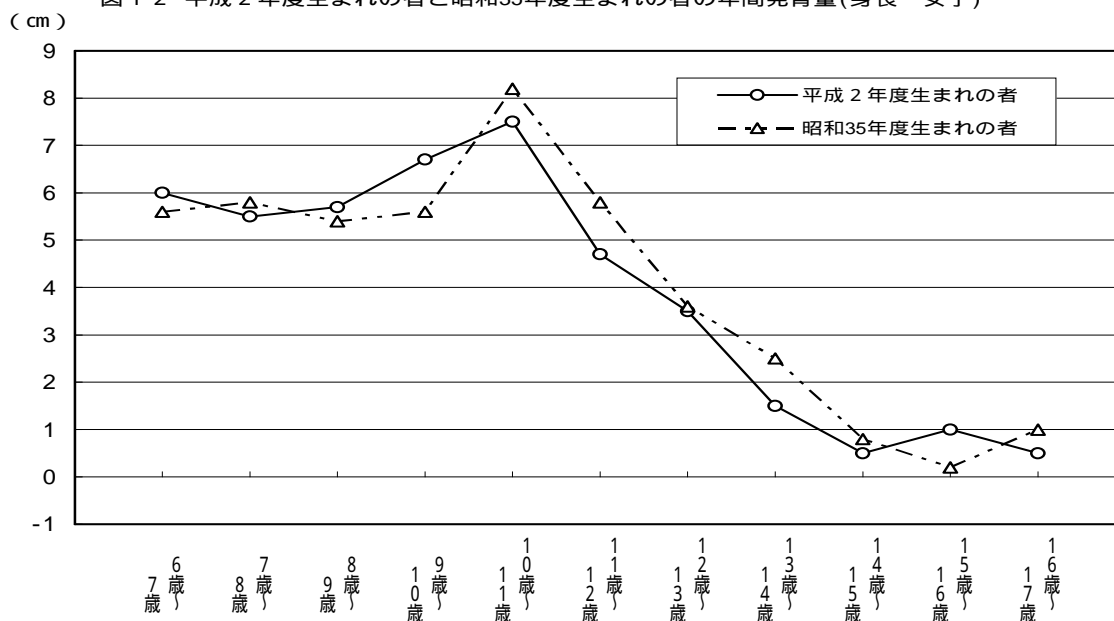


図12 平成2年度生まれの者と昭和35年度生まれの者の年間発育量（身長・女子）



(2) 体 重

体重の年間発育量について「平成2年度生まれの者」と「昭和35年度生まれの者」とを比較すると、最大の年間発育量を示す時期は、男子では、「平成元年度生まれの者」が14歳～15歳（年間発育量6.1kg）、「昭和35年度生まれの者」は13歳～14歳（同5.7kg）になっています。女子では、「平成2年度生まれの者」が10歳～11歳（同5.9kg）、「昭和34年度生まれの者」は10歳～11歳（同5.9kg）になっています。

図13 平成2年度生まれの者と昭和35年度生まれの者の年間発育量(体重・男子)

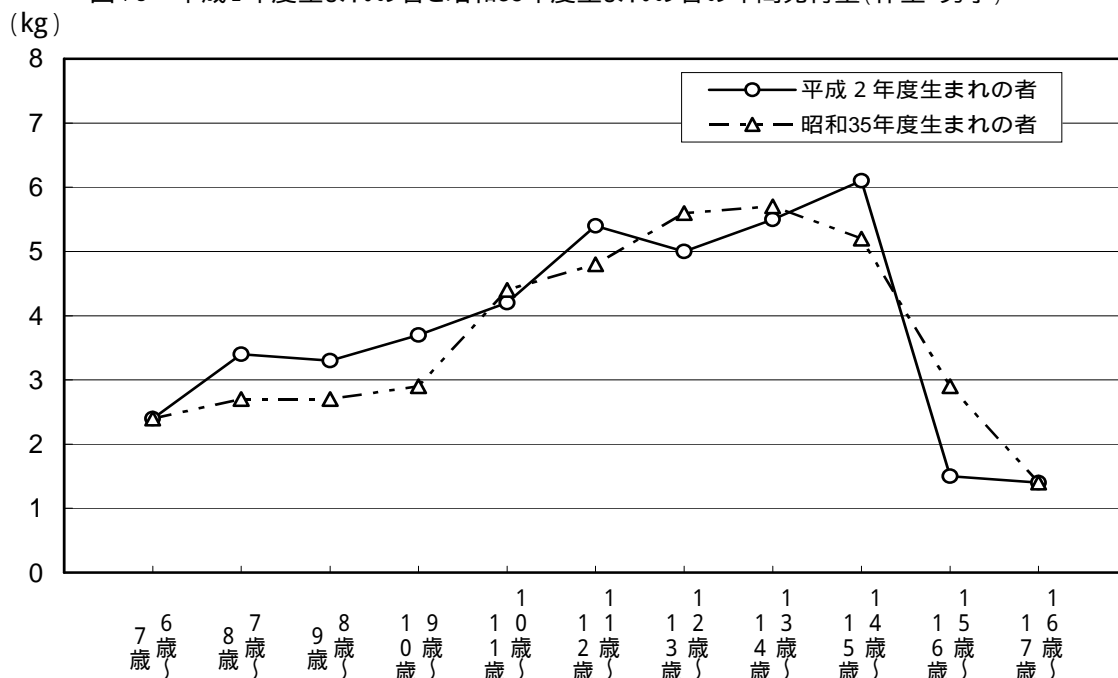
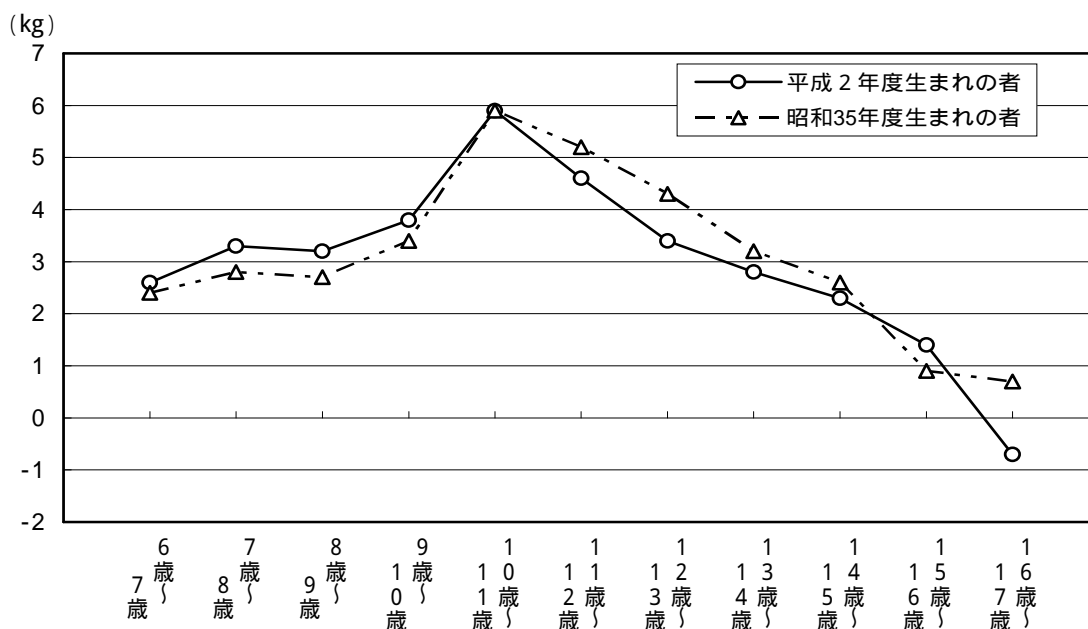


図14 平成2年度生まれの者と昭和35年度生まれの者の年間発育量(体重・女子)



(3) 11年間(小1～高3)の総発育量の比較

身長を発育量を小学校の時期(6歳から12歳までの時期)と中学校・高等学校の時期(12歳から17歳までの時期)とに分けてみると、男子では、小学校の時期は「平成2年度生まれの者」が35.2cm、「昭和35年度生まれの者」は34.5cmで、「平成2年度生まれの者」の方が大きくなっていますが、中学校・高等学校の時期は「平成2年度生まれの者」が19.5cm、「昭和35年度生まれの者」は21.3cmで、逆に「昭和35年度生まれの者」の方が大きくなっています。女子では、小学校の時期は「昭和35年度生まれの者」の方が大きく、中学校・高等学校の時期も「昭和35年度生まれの者」の方が大きくなっています。

なお、「平成2年度生まれの者」の6歳から17歳までの11年間の総発育量は、「昭和35年度生まれの者」よりも男子は1.1cm、女子は1.4cmそれぞれ小さくなっています。

また、体重の発育量を小学校の時期と中学校・高等学校の時期とに分けてみると、男女とも、小学校の時期は「平成2年度生まれの者」の方が大きく、中学校・高等学校の時期は「昭和35年度生まれの者」の方が大きくなっています。

なお、「平成2年度生まれの者」の6歳から17歳までの11年間の総発育量は、「昭和35年度生まれの者」よりも男子は1.2kg大きく、女子は1.5kg小さくなっています。

表9 「平成2年度生まれの者」と「昭和35年度生まれの者」の年間発育量

性別	年齢区分	身長(cm)				体重(kg)			
		平成2年度 生まれの者		昭和35年度 生まれの者		平成2年度 生まれの者		昭和35年度 生まれの者	
男 子	6歳(小1)～7歳(小2)	5.4		5.7		2.4		2.4	
	7歳(小2)～8歳(小3)	5.6		5.8		3.4		2.7	
	8歳(小3)～9歳(小4)	5.6	35.2	3.3	34.5	3.3	22.4	2.7	19.9
	9歳(小4)～10歳(小5)	5.4		5.8		3.7		2.9	
	10歳(小5)～11歳(小6)	6.0		6.8		4.2		4.4	
	11歳(小6)～12歳(中1)	7.2		7.1		5.4		4.8	
	12歳(中1)～13歳(中2)	7.9		7.1		5.0		5.6	
	13歳(中2)～14歳(中3)	5.7		7.0		5.5		5.7	
	14歳(中3)～15歳(高1)	3.3	19.5	4.2	21.3	6.1	19.5	5.2	20.8
	15歳(高1)～16歳(高2)	1.5		2.1		1.5		2.9	
	16歳(高2)～17歳(高3)	1.1		0.9		1.4		1.4	
11年間の総発育量	54.7		55.8		41.9		40.7		
年間発育量の最も大きい年齢	12歳～13歳	11～12、12～13歳	14歳～15歳	13歳～14歳					
女 子	6歳(小1)～7歳(小2)	6.0		5.6		2.6		2.4	
	7歳(小2)～8歳(小3)	5.5		5.8		3.3		2.8	
	8歳(小3)～9歳(小4)	5.7	36.1	5.4	36.4	3.2	23.4	2.7	22.4
	9歳(小4)～10歳(小5)	6.7		5.6		3.8		3.4	
	10歳(小5)～11歳(小6)	7.5		8.2		5.9		5.9	
	11歳(小6)～12歳(中1)	4.7		5.8		4.6		5.2	
	12歳(中1)～13歳(中2)	3.5		3.6		3.4		4.3	
	13歳(中2)～14歳(中3)	1.5		2.5		2.8		3.2	
	14歳(中3)～15歳(高1)	0.5	7.0	0.8	8.1	2.3	9.2	2.6	11.7
	15歳(高1)～16歳(高2)	1.0		0.2		1.4		0.9	
	16歳(高2)～17歳(高3)	0.5		1.0		0.7		0.7	
11年間の総発育量	43.1		44.5		32.6		34.1		
年間発育量の最も大きい年齢	10歳～11歳	10歳～11歳	10歳～11歳	10歳～11歳					

- (注) ・年間発育量は、たとえば平成2年度生まれの者の「6～7歳」の年間発育量は、平成10年度調査の7歳の体格から平成9年度調査の6歳の体格を引いたものです。
 ・11年間の総発育量は、6歳から17歳になるまでの発育量の合計です。
 ・平成2年度生まれの者とは、平成2年4月2日から平成3年4月1日までに生まれた者で、平成9年度調査の6歳、平成20年度調査の17歳です。
 ・昭和35年度生まれの者とは、昭和35年4月2日から昭和36年4月1日までに生まれた者で、昭和42年度調査の6歳、昭和53年度調査の17歳です。